

1

解答解説のページへ

$xy$  平面上の 3 点  $A(0, 1)$ ,  $B(-1, 0)$ ,  $C(1, 0)$  を頂点とする  $\triangle ABC$  の内接円を  $T$  とする。点  $D(0, -1)$  を通り、傾きが正である直線を  $l: y = ax - 1$  とする。

- (1) 円  $T$  の半径を  $r$  とする。 $r$  を求めよ。
- (2) 直線  $l$  と円  $x^2 + y^2 = 1$  の交点のうち、 $D$  と異なる点を  $E$  とする。点  $E$  の座標を  $a$  を用いて表せ。
- (3) 直線  $l$  が円  $T$  に接するとする。このとき、(2) で求めた点  $E$  を通り、 $x$  軸と平行な直線が、円  $T$  に接することを示せ。

**2**

解答解説のページへ

$xy$  平面において、円  $x^2 + y^2 = 1$  の  $x \geq 0$  かつ  $y \geq 0$  を満たす部分を  $C_1$  とする。また、直線  $y = x$  の  $x \leq 0$  を満たす部分を  $C_2$  とする。 $C_1$  上の点  $A$ 、 $C_2$  上の点  $B$  および点  $P(-1, 0)$  について、 $\angle APB = \frac{\pi}{2}$  であるとする。点  $A$  の座標を  $(\cos \theta, \sin \theta)$  とする。

ただし  $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$  とする。

- (1) 点  $B$  の  $x$  座標を  $\theta$  を用いて表せ。
- (2) 線分  $AB$  の midpoint の  $x$  座標が  $0$  以上であるような  $\theta$  の範囲を求めよ。

3

解答解説のページへ

O を原点とする  $xy$  平面上に 2 直線  $l: y = \sqrt{3}x$ ,  $m: y = -\frac{1}{\sqrt{3}}x$  がある。正の整数  $n$  に対して、 $l$  上に点  $P_n(n, \sqrt{3}n)$  をとり、 $m$  上に点  $Q_n(x_n, -\frac{1}{\sqrt{3}}x_n)$  をとる。ただし、 $x_n (n=1, 2, 3, \dots)$  は次の条件(I), (II)を満たすとする。

(I)  $x_1 = 1$  である。

(II)  $n \geq 2$  のとき、 $x_n$  は、 $Q_{n-1}$  を通り  $l$  と平行な直線と、 $x$  軸との交点の  $x$  座標である。

また、正の整数  $n$  に対して、 $\triangle OP_nQ_n$  の面積を  $a_n$  とする。

- (1)  $x_n$  を  $n$  を用いて表せ。
- (2)  $a_n$  を  $n$  を用いて表せ。
- (3) 正の整数  $n$  に対して、 $S_n = \sum_{k=1}^n a_k$  と定める。 $S_n$  を  $n$  を用いて表せ。

4

解答解説のページへ

関数  $f(\theta)$ ,  $g(\theta)$  を,  $f(\theta) = \sin\theta - \frac{\sqrt{2}}{2}$ ,  $g(\theta) = \sin 2\theta$  と定める。  $xy$  平面上の曲線  $C$  が, 媒介変数  $\theta$  を用いて

$$x = f(\theta), \quad y = g(\theta) \quad \left(0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{4}\right)$$

で表されている。

(1) 次の定積分  $I_1$ ,  $I_2$ ,  $I_3$  の値を求めよ。

$$I_1 = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \cos 2\theta d\theta, \quad I_2 = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin \theta \cos 2\theta d\theta, \quad I_3 = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin^2 \theta \cos 2\theta d\theta$$

(2)  $\frac{dy}{dx}$  を  $\theta$  の関数として表し, 曲線  $C$  の概形を  $xy$  平面上に描け。

(3) 曲線  $C$ ,  $x$  軸および  $y$  軸で囲まれた図形を,  $y$  軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積を求めよ。

5

解答解説のページへ

数列  $\{a_n\}$  が,  $a_1 = \frac{c}{1+c}$ ,  $a_{n+1} = \frac{1}{2-a_n}$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ) を満たすとする。ただし,

$c$  は正の実数である。

- (1)  $a_2, a_3$  を求めよ。
- (2) 数列  $\{a_n\}$  の一般項  $a_n$  を求めよ。
- (3)  $\sum_{n=1}^{\infty} \left( \frac{a_{n+1}}{a_n} - 1 \right)$  を求めよ。

6

解答解説のページへ

$i$  は虚数単位とする。複素数  $z$  に対して、その共役複素数を  $\bar{z}$  で表す。複素数平面上で、次の等式を満たす点  $z$  の全体が表す図形を  $C$  とする。

$$z\bar{z} + (1+3i)z + (1-3i)\bar{z} + 9 = 0$$

以下の問いに答えよ。

- (1) 図形  $C$  を複素数平面上に描け。
- (2) 複素数  $w$  に対して、 $\alpha = w + \bar{w} - 1$ 、 $\beta = w + \bar{w} + 1$  とする。 $w$ 、 $\alpha$ 、 $\beta$  が表す複素数平面上の点をそれぞれ  $P$ 、 $A$ 、 $B$  とする。点  $P$  は  $C$  上を動くとする。 $\triangle PAB$  の面積が最大となる複素数  $w$ 、およびそのときの  $\triangle PAB$  の外接円の中心と半径を求めよ。

1

- (1) 3 点  $A(0, 1)$ ,  $B(-1, 0)$ ,  $C(1, 0)$  を頂点とする  $\triangle ABC$  に対して, その内接円  $T$  の半径を  $r$  とすると,  $AB = AC = \sqrt{2}$ ,  $BC = 2$  から,

$$\frac{1}{2}(\sqrt{2} + \sqrt{2} + 2)r = \frac{1}{2} \cdot 2 \cdot 1, \quad (\sqrt{2} + 1)r = 1$$

これより,  $r = \frac{1}{\sqrt{2} + 1} = \sqrt{2} - 1$  となる。

- (2) 直線  $l: y = ax - 1$  ……①と円  $x^2 + y^2 = 1$  を連立して,

$$x^2 + (ax - 1)^2 = 1, \quad (a^2 + 1)x^2 - 2ax = 0$$

$x \neq 0$  の解は  $x = \frac{2a}{a^2 + 1}$  となり, ①から  $y = a \cdot \frac{2a}{a^2 + 1} - 1 = \frac{a^2 - 1}{a^2 + 1}$

よって,  $E\left(\frac{2a}{a^2 + 1}, \frac{a^2 - 1}{a^2 + 1}\right)$  となる。

- (3) (1)から, 二等辺三角形  $ABC$  の内接円  $T$  の中心の座標は  $(0, \sqrt{2} - 1)$ , 半径は  $\sqrt{2} - 1$  であり,  $l: ax - y - 1 = 0$  ( $a > 0$ ) が円  $T$  に接する条件は,

$$\frac{|a \cdot 0 - (\sqrt{2} - 1) - 1|}{\sqrt{a^2 + 1}} = \sqrt{2} - 1, \quad \sqrt{2} = (\sqrt{2} - 1)\sqrt{a^2 + 1}$$

これより,  $a^2 + 1 = \left(\frac{\sqrt{2}}{\sqrt{2} - 1}\right)^2 = (2 + \sqrt{2})^2 = 6 + 4\sqrt{2}$  となり,

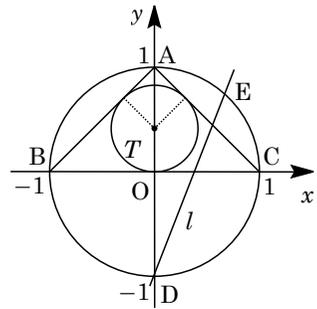
$$\frac{a^2 - 1}{a^2 + 1} = \frac{4 + 4\sqrt{2}}{6 + 4\sqrt{2}} = \frac{2 + 2\sqrt{2}}{3 + 2\sqrt{2}} = \frac{(2 + 2\sqrt{2})(3 - 2\sqrt{2})}{9 - 8} = -2 + 2\sqrt{2}$$

すると, 点  $E$  を通り  $x$  軸と平行な直線の方程式は  $y = -2 + 2\sqrt{2}$  ……②であり,  $T$  の中心  $(0, \sqrt{2} - 1)$  との距離は,  $(-2 + 2\sqrt{2}) - (\sqrt{2} - 1) = \sqrt{2} - 1$  となり,  $T$  の半径に等しい。よって, 直線②は内接円  $T$  に接する。

### [解説]

円と直線についての基本題です。(1)は面積を利用しましたが, 他の方法もいろいろ考えられます。

問題のページへ



2

問題のページへ

(1)  $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ ,  $t \leq 0$  として,  $A(\cos \theta, \sin \theta)$ ,  $B(t, t)$ ,

$P(-1, 0)$  に対し,

$$\overrightarrow{PA} = (\cos \theta + 1, \sin \theta), \quad \overrightarrow{PB} = (t + 1, t)$$

ここで,  $\angle APB = \frac{\pi}{2}$  なので,  $\overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PB} = 0$  となり,

$$(t + 1)(\cos \theta + 1) + t \sin \theta = 0$$

$$(\sin \theta + \cos \theta + 1)t + (\cos \theta + 1) = 0$$

$\sin \theta + \cos \theta + 1 > 0$  から  $t = -\frac{\cos \theta + 1}{\sin \theta + \cos \theta + 1}$  となり, この値は  $t \leq 0$  を満たす。

よって, 点 B の  $x$  座標は  $x = -\frac{\cos \theta + 1}{\sin \theta + \cos \theta + 1}$  である。

(2) 線分 AB の中点の  $x$  座標が 0 以上より,  $\frac{1}{2} \left( \cos \theta - \frac{\cos \theta + 1}{\sin \theta + \cos \theta + 1} \right) \geq 0$  となり,

$$\cos \theta (\sin \theta + \cos \theta + 1) - (\cos \theta + 1) \geq 0, \quad \sin \theta \cos \theta + \cos^2 \theta - 1 \geq 0$$

$$\sin \theta \cos \theta - \sin^2 \theta \geq 0, \quad \sin \theta (\cos \theta - \sin \theta) \geq 0 \cdots \cdots (*)$$

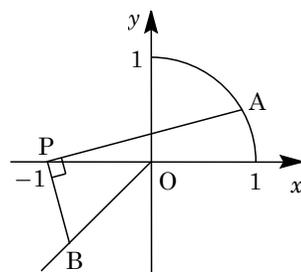
ここで,  $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$  より  $\sin \theta \geq 0$  となり,

(i)  $\sin \theta = 0$  ( $\theta = 0$ ) のとき (\*) は成立する。

(ii)  $\sin \theta > 0$  ( $0 < \theta \leq \frac{\pi}{2}$ ) のとき (\*) から  $\cos \theta - \sin \theta \geq 0$

すると,  $\cos \theta \geq \sin \theta$  から  $0 < \theta \leq \frac{\pi}{4}$  となる。

(i)(ii) より, 求める  $\theta$  の範囲は  $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{4}$  である。



### [解説]

三角関数の図形への応用問題です。基本的な内容ですが, (2)の詰めは要注意です。

3

問題のページへ

- (1) 直線  $l: y = \sqrt{3}x$  上に点  $P_n(n, \sqrt{3}n)$ ,  $m: y = -\frac{1}{\sqrt{3}}x$  上に点  $Q_n(x_n, -\frac{1}{\sqrt{3}}x_n)$  をとる。

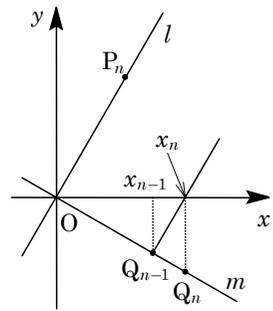
$n \geq 2$  のとき, 点  $Q_{n-1}(x_{n-1}, -\frac{1}{\sqrt{3}}x_{n-1})$  を通り  $l$  と平行な直線の方程式は,

$$y + \frac{1}{\sqrt{3}}x_{n-1} = \sqrt{3}(x - x_{n-1})$$

この直線と  $x$  軸との交点の  $x$  座標が  $x_n$  より,

$$\frac{1}{\sqrt{3}}x_{n-1} = \sqrt{3}(x_n - x_{n-1}), \quad x_{n-1} = 3(x_n - x_{n-1})$$

これより  $x_n = \frac{4}{3}x_{n-1}$  となり,  $x_1 = 1$  から  $x_n = x_1 \left(\frac{4}{3}\right)^{n-1} = \left(\frac{4}{3}\right)^{n-1}$  である。



- (2)  $\triangle OP_nQ_n$  の面積を  $a_n$  とすると,  $l \perp m$  から,

$$\begin{aligned} a_n &= \frac{1}{2} OP_n \cdot OQ_n = \frac{1}{2} \sqrt{n^2 + 3n^2} \cdot \sqrt{x_n^2 + \frac{1}{3}x_n^2} = \frac{1}{2} \cdot 2n \cdot \frac{2}{\sqrt{3}} |x_n| \\ &= \frac{2}{\sqrt{3}} n \left(\frac{4}{3}\right)^{n-1} = \frac{2}{\sqrt{3}} n \cdot \frac{3}{4} \left(\frac{4}{3}\right)^n = \frac{\sqrt{3}}{2} n \left(\frac{4}{3}\right)^n \end{aligned}$$

- (3) (2)より,  $S_n = \sum_{k=1}^n a_k = \frac{\sqrt{3}}{2} \sum_{k=1}^n k \left(\frac{4}{3}\right)^k$  となり,  $T_n = \sum_{k=1}^n k \left(\frac{4}{3}\right)^k$  とおくと,

$$\begin{aligned} T_n - \frac{4}{3}T_n &= 1 \cdot \frac{4}{3} + (2-1)\left(\frac{4}{3}\right)^2 + \cdots + \{n - (n-1)\}\left(\frac{4}{3}\right)^n - n\left(\frac{4}{3}\right)^{n+1} \\ &= \frac{4}{3} \cdot \frac{\left(\frac{4}{3}\right)^n - 1}{\frac{4}{3} - 1} - n\left(\frac{4}{3}\right)^{n+1} = 4\left\{\left(\frac{4}{3}\right)^n - 1\right\} - n\left(\frac{4}{3}\right)^{n+1} \\ &= \left(4 - \frac{4}{3}n\right)\left(\frac{4}{3}\right)^n - 4 \end{aligned}$$

すると,  $-\frac{1}{3}T_n = \left(4 - \frac{4}{3}n\right)\left(\frac{4}{3}\right)^n - 4$  から,  $T_n = 4(n-3)\left(\frac{4}{3}\right)^n + 12$  となり,

$$S_n = \frac{\sqrt{3}}{2}T_n = \frac{\sqrt{3}}{2}\left\{4(n-3)\left(\frac{4}{3}\right)^n + 12\right\} = 2\sqrt{3}\left\{(n-3)\left(\frac{4}{3}\right)^n + 3\right\}$$

### [解説]

数列の図形への応用題です。平易な内容ですが, (3)で(等差) $\times$ (等比)のタイプの和が出現しますので, 計算ミスを防ぐために細心の注意が必要です。

4

問題のページへ

$$(1) \text{ まず, } I_1 = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \cos 2\theta d\theta = \frac{1}{2} [\sin 2\theta]_0^{\frac{\pi}{4}} = \frac{1}{2} \text{ となり,}$$

$$\begin{aligned} I_2 &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin \theta \cos 2\theta d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{4}} (2\cos^2 \theta - 1) \sin \theta d\theta = \left[ -\frac{2}{3} \cos^3 \theta + \cos \theta \right]_0^{\frac{\pi}{4}} \\ &= -\frac{2}{3} \left( \frac{\sqrt{2}}{4} - 1 \right) + \left( \frac{\sqrt{2}}{2} - 1 \right) = \frac{\sqrt{2}}{3} - \frac{1}{3} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} I_3 &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin^2 \theta \cos 2\theta d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1 - \cos 2\theta}{2} \cdot \cos 2\theta d\theta \\ &= \frac{1}{2} \int_0^{\frac{\pi}{4}} (\cos 2\theta - \cos^2 2\theta) d\theta = \frac{1}{2} \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left( \cos 2\theta - \frac{1 + \cos 4\theta}{2} \right) d\theta \\ &= \frac{1}{4} \int_0^{\frac{\pi}{4}} (-\cos 4\theta + 2\cos 2\theta - 1) d\theta = \frac{1}{4} \left[ -\frac{1}{4} \sin 4\theta + \sin 2\theta - \theta \right]_0^{\frac{\pi}{4}} \\ &= \frac{1}{4} \left( 1 - \frac{\pi}{4} \right) = \frac{1}{4} - \frac{\pi}{16} \end{aligned}$$

$$(2) \text{ } C: x = \sin \theta - \frac{\sqrt{2}}{2}, \quad y = \sin 2\theta \text{ において,}$$

$$\frac{dx}{d\theta} = \cos \theta, \quad \frac{dy}{d\theta} = 2\cos 2\theta$$

よって,  $\frac{dy}{dx} = \frac{2\cos 2\theta}{\cos \theta}$  となる。

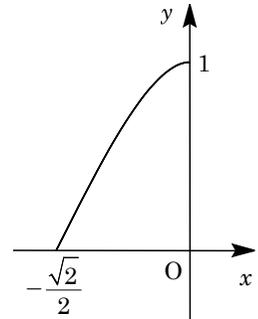
さて,  $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{4}$  における  $x, y$  の増減は右表のようになる。そして,  $\theta = 0$  のとき  $\frac{dy}{dx} = 2$ ,  $\theta = \frac{\pi}{4}$  のとき  $\frac{dy}{dx} = 0$ ,  $0 < \theta < \frac{\pi}{4}$  のとき  $\frac{dy}{dx} > 0$  に注意して曲線

$\theta$	0	...	$\frac{\pi}{4}$
$\frac{dx}{d\theta}$	1	+	$\frac{\sqrt{2}}{2}$
$x$	$-\frac{\sqrt{2}}{2}$	$\nearrow$	0
$\frac{dy}{d\theta}$	2	+	0
$y$	0	$\nearrow$	1

$C$  の概形を描くと, 右図の曲線となる。

(3) 曲線  $C$ ,  $x$  軸および  $y$  軸で囲まれた図形を,  $y$  軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積  $V$  は, (1) の結果を利用して,

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_0^1 x^2 dy = \pi \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left( \sin \theta - \frac{\sqrt{2}}{2} \right)^2 \cdot 2\cos 2\theta d\theta \\ &= 2\pi \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left( \sin^2 \theta - \sqrt{2} \sin \theta + \frac{1}{2} \right) \cos 2\theta d\theta \\ &= 2\pi \left\{ \left( \frac{1}{4} - \frac{\pi}{16} \right) - \sqrt{2} \left( \frac{\sqrt{2}}{3} - \frac{1}{3} \right) + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} \right\} = \left( \frac{2}{3} \sqrt{2} - \frac{1}{3} - \frac{\pi}{8} \right) \pi \end{aligned}$$



### [解説]

パラメータ曲線の  $y$  軸回転体について, その体積計算の問題です。(1) の定積分の値が, ストレートに適用できます。

5

問題のページへ

(1)  $a_1 = \frac{c}{1+c}$ ,  $a_{n+1} = \frac{1}{2-a_n}$  ( $n=1, 2, 3, \dots$ ) に対して,

$$a_2 = \frac{1}{2-a_1} = \frac{1}{2-\frac{c}{1+c}} = \frac{1+c}{2+c}, \quad a_3 = \frac{1}{2-a_2} = \frac{1}{2-\frac{1+c}{2+c}} = \frac{2+c}{3+c}$$

(2) (1)から  $a_n = \frac{n-1+c}{n+c}$  と推測でき, この式が正しいことを数学的帰納法で示す。

(i)  $n=1$  のとき  $a_1 = \frac{1-1+c}{1+c} = \frac{c}{1+c}$  より成立している。

(ii)  $n=k$  のとき  $a_k = \frac{k-1+c}{k+c}$  と仮定すると,

$$a_{k+1} = \frac{1}{2-a_k} = \frac{1}{2-\frac{k-1+c}{k+c}} = \frac{k+c}{k+1+c}$$

よって,  $n=k+1$  のときも成立している。

(i)(ii)より, すべての自然数  $n$  に対して,  $a_n = \frac{n-1+c}{n+c}$  である。

(3) まず,  $S_n = \sum_{k=1}^n \left( \frac{a_{k+1}}{a_k} - 1 \right)$  とおくと,

$$\begin{aligned} \frac{a_{k+1}}{a_k} - 1 &= \frac{k+c}{k+1+c} \cdot \frac{k+c}{k-1+c} - 1 = \frac{(k+c)^2 - (k+1+c)(k-1+c)}{(k+1+c)(k-1+c)} \\ &= \frac{(k+c)^2 - \{(k+c)^2 - 1\}}{(k+1+c)(k-1+c)} = \frac{1}{(k+1+c)(k-1+c)} \\ &= \frac{1}{2} \left( \frac{1}{c+k-1} - \frac{1}{c+k+1} \right) \end{aligned}$$

これより,  $S_n = \frac{1}{2} \sum_{k=1}^n \left( \frac{1}{c+k-1} - \frac{1}{c+k+1} \right)$  となり,

$$\begin{aligned} S_n &= \frac{1}{2} \left( \frac{1}{c} - \frac{1}{c+2} \right) + \frac{1}{2} \left( \frac{1}{c+1} - \frac{1}{c+3} \right) + \frac{1}{2} \left( \frac{1}{c+2} - \frac{1}{c+4} \right) + \dots \\ &\quad + \frac{1}{2} \left( \frac{1}{c+n-2} - \frac{1}{c+n} \right) + \frac{1}{2} \left( \frac{1}{c+n-1} - \frac{1}{c+n+1} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left( \frac{1}{c} + \frac{1}{c+1} \right) - \frac{1}{2} \left( \frac{1}{c+n} + \frac{1}{c+n+1} \right) \end{aligned}$$

以上より,  $\sum_{n=1}^{\infty} \left( \frac{a_{n+1}}{a_n} - 1 \right) = \lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \frac{1}{2} \left( \frac{1}{c} + \frac{1}{c+1} \right) = \frac{2c+1}{2c(c+1)}$  である。

### [解説]

誘導から予測できますが, 推測→証明のタイプの漸化式が題材になっています。

6

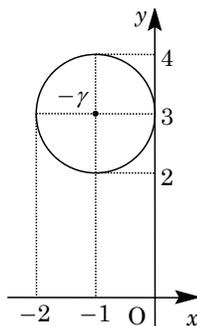
問題のページへ

- (1)
- $\bar{z}z + (1+3i)z + (1-3i)\bar{z} + 9 = 0 \cdots \cdots (*)$
- に対して,
- $\gamma = 1-3i$
- とおくと,

$$\bar{\gamma} = 1+3i, \quad \gamma\bar{\gamma} = 1^2 + (-3)^2 = 10$$

(\*)から,  $\bar{z}z + \bar{\gamma}z + \gamma\bar{z} + \gamma\bar{\gamma} - 1 = 0$ ,  $(z+\gamma)(\bar{z}+\bar{\gamma}) = 1$  となり,

$$|z+\gamma|^2 = 1, \quad |z-(-\gamma)| = 1$$

よって, 点  $z$  は点  $-\gamma = -1+3i$  を中心とする半径 1 の円を描く。そこで, 点  $z$  の全体が表す図形を  $C$  とすると,  $C$  は複素数平面上で右図のようになる。

- (2) 複素数
- $w$
- に対して,
- $\alpha = w + \bar{w} - 1$
- ,
- $\beta = w + \bar{w} + 1$
- とし,

 $P(w)$ ,  $A(\alpha)$ ,  $B(\beta)$  とおく。そして,  $w = x + yi$  とおくと,

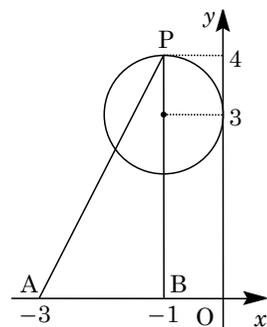
$$\alpha = (x + yi) + (x - yi) - 1 = 2x - 1, \quad \beta = (x + yi) + (x - yi) + 1 = 2x + 1$$

これより,  $A(\alpha)$ ,  $B(\beta)$  はともに実軸上にあり,

$$AB = |\beta - \alpha| = |(2x + 1) - (2x - 1)| = 2$$

すると,  $\triangle PAB$  の面積が最大となるのは, 点  $P$  が  $C$  上を動くことから,  $P$  と実軸との距離が最大になるとき, すなわち  $w = -1 + 4i$  のときである。そして,  $x = -1$  から  $\alpha = -2 - 1 = -3$ ,  $\beta = -2 + 1 = -1$  となり,  $\triangle PAB$  は  $\angle B = 90^\circ$  の直角三角形である。よって,  $\triangle PAB$  の外接円の中心は,  $PA$  の中点となり,

$$\frac{1}{2}\{(-1 + 4i) + (-3)\} = -2 + 2i$$

また, 半径は,  $|(-2 + 2i) - (-3)| = |1 + 2i| = \sqrt{1^2 + 2^2} = \sqrt{5}$  となる。

## [解説]

複素数平面上の円のついで標準的な問題です。(1)は, 結論を承知のうえでの変形ですが, 普通に  $z = x + yi$  を代入しても構いません。